

令和2年10月14日
県庁舎跡地活用室

県庁舎跡地埋蔵文化財の取扱いに関する外部専門家からの
意見聴取（第1回・追加）の結果について

去る9月29日、外部専門家を招聘し、県庁舎跡地での現地説明及び意見聴取を実施した結果について下記のとおりお知らせします。

なお、今回は調査の作業スケジュールの関係もあり、取材のご案内ができませんでしたことをご了承願います。

記

（招聘した外部専門家）

・坂井 秀弥氏【(公財)大阪府文化財センター長】元文化庁調査官

（概要）

現地において、石垣や町屋の状況などを確認し、その後意見聴取を実施。

（主な意見等）

- ・石垣は江戸初期まで遡ると考えられ、積み直しが行われていることも年代の変遷が分かり価値あるものである。
- ・石を割る時の矢穴の形状やアマカワ（江戸後期に用いられた石垣の隙間を塞ぐ部材）など長崎独特の特徴がよく表れている点も価値あるところである。
- ・敷地の輪郭が石垣に守られて今まで継承されており、歴史的にも価値あるものである。
- ・引き続き石垣や町屋の状況把握に努めるとともに出島とセットで十分な価値付けを行ったうえで、保存・活用していくべきと考える。